



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2012.6

No.338

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



カワセミたちのいる風景

海老原美夫(さいたま市)

山と溪谷社『野鳥の名前』のカワセミの解説に、「本居宣長の古事記伝では、曾比(そび)、少微(せうび)、世美(せび)などは、みな蘇爾(そに)の訛れるなり、という」とあって、「セミ」も「ショウビン」も、もとは同じ言葉から変化したようです。

国内のブッポウソウ目カワセミ科の鳥は、日本鳥学会『日本鳥類目録改訂第6版2000』によれば、

ヤマセミ属 ヤマセミ(亜種エゾヤマセミと亜種ヤマセミ)

アカショウビン属 ヤマショウビン、アカショウビン(亜種アカショウビンと亜種リュウキュウアカショウビン)、ミヤコショウビン(絶滅)、ナンヨウショウビン(迷鳥)

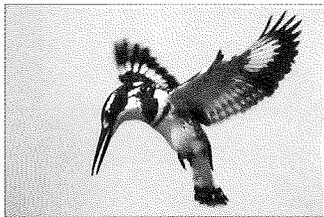
カワセミ属 カワセミ

の3属6種が記載されています。

では、世界では? 諸説ありますが、大学書林『世界鳥類和名辞典(山階芳麿著)』によれば、14属92種となっています。カワセミ類目的で出かけたわけではありませんが、折々の探鳥旅行で私が出会ったカワセミたちのうち10種を分類順にご紹介します。

ヒメヤマセミ

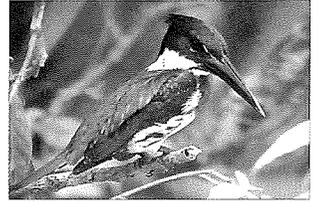
ヤマセミ属。全長24~30cm。日本のヤマセミより10cmほど小さい白黒模様の鳥。中国、東南アジアからアフリカまで分布。最初に会ったのは香港。この写真は2001年南アフリカで



撮影。つまり分布の東端と南端で見たこととなります。その分布の途中何ヵ所かで会っていますが、エジプトの遺跡の水辺をたくさん飛び回っていたのが、印象に残っています。

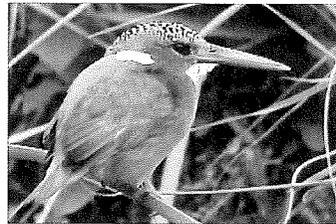
オオミドリヤマセミ

ミドリヤマセミ属。全長26cm。メキシコからアルゼンチン中部に分布。1999年ベネズエラで、密林の中の川を船で遡っていたら、川岸の緑の重なりに溶け込むようにとまっていた。



カンムリカワセミ

カワセミ属。全長約13cm。日本のカワセミより小さい。サハラ以南のアフリカに分布。

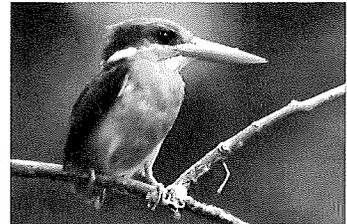


明るい青の頭、深みのある青の上面、赤いくちばし、華やかな色彩です。1999

年ケニア旅行の途中、背景にナイロビの高層ビル群が見える国立公園の草原で、車の中から撮影しました。

セアカミツユビカワセミ

ミツユビカワセミ属。全長約13cm。くちばしと足は赤。他も全体に赤っぽい鳥。東南アジアの一部に分布。2011年インドネシア・バリ島。乾季の終り頃、乾いた密林の川床に残った水場で座って待つことしばし。ちゃんと狙いの枝に来てくれた可愛いやつです。巣穴は日本のカワセミのものに似ていました。



コウハシショウビン

コウハシショウビン属。全長 32~35cm。フィリピン、マレーシアなどの東南アジアから



ネパールまで分布。頭と胸は茶褐色、上面はくすんだ緑。目のまわりが赤いので、顔つきが悪く見え、コウノト

りのくちばしに似た大きく赤いくちばしが目立ちます。2003年マレーシアの国立公園、濃密な森林の中の川辺で出会いました。

カザリショウビン

カザリショウビン属。全長約 21cm。東南アジアの一部に分布。2010年ボルネオで出会ったのはメスな

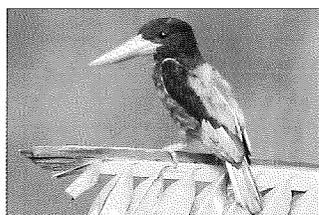
ので、赤褐色の上面に細かい黒の縞模様があります。ある公園の奥



まった林の高い所で、じっくり姿を見せてくれました。オスの場合は頭が青、黒い上面に青白の縞模様です。

ジャワショウビン

ヤマショウビン属。全長 25cm。ジャワ島とバリ島の固有種。赤いくちばしと足、黒褐色



の頭、様々な青の上面と下面。少しくどいデザインかなと感じるのは、私だけでしょうか。

2011年インドネシア・バリ島で撮影。

緑の水田の上を飛ぶと翼の大きな白斑が目立ちました。

ハイガシラショウビン

ヤマショウビン属。全長約 20cm。頭と後頸は灰白色、くちばしは赤、背は黒、上面は様々な青。アフリカのエチオピア以南に分布。乾燥地帯や半砂漠地域の林などに生息。2011年



林の中でした。

タンザニア。サファリの途中で車の中から撮影。やはり、水辺から離れた乾いた

セネガルショウビン

ヤマショウビン属。全長約 20cm。上くちば

しが赤、下くちばしが黒。風切と雨覆は黒。アフリカ中央部に分布。1999年ケニア。湖に面した



ホテルの広い敷地、湖側の林にいました。多すぎるほどの鳥や哺乳類に出会った旅でしたが、この鳥の印象は埋没することなく、しっかり残りました。

ヒジリショウビン

ヤマショウビン属。全長 20~23cm。フィリピンからボルネオ、オーストラリア、ニュージーランドなどに分布。頭と上面が青、首と

下面が白、くちばし黒の色調はナンヨウショウビンに似ていますが、腹が褐色味を帯びるなど、色が少し鈍く感じ



ます。2011年インドネシア・バリ島の湿地。ニュージーランドやオーストラリアでも出会っています。

日本のカワセミ類も合わせると、今まで会えたのは 30 種ほどでしょうか。90 何種の中のごくわずかですが、数の問題ではなく、私にはその風景の積み重なりが大切です。

自宅からぶらりと出かける水辺で見慣れたカワセミを見れば、その風景を楽しみながら、その向こうに、世界のカワセミたちのいる環境を思い起こしています。

2012年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 研究部

日 時：2012年4月29日
 午前9時35分～11時30分
 場 所：さいたま市 大久保農耕地
 天 候：晴れ

本州付近は高気圧に覆われたため、朝から晴れて夏日となりました。また、連休にもかかわらず、会員19名のご協力が得られました。ありがとうございました。

観察された種数、個体数は3種55羽です。昨年の春と比較すると種数で3種減りましたが、個体数で34羽多くなりました。個体数が多くなった原因は、昨年と比べるとムナグロが38羽多く観察されたためです。

今年も4月が天候不順だったためか、田植えのすんだ田んぼがもっと多く見られる例年とは違い、やっと田植えが始まった状態でした。それに加え堤防などの工事もしているた

めか、シギ・チドリ類があまり観察されませんでした。

下の表は今までの春の調査結果と合せてまとめたものです。今年もムナグロのほとんど(43羽)が、堤防内のA区で観察されました。タシギ属不明種およびシギ科不明種は、種数には入れませんでした。(石井 智)

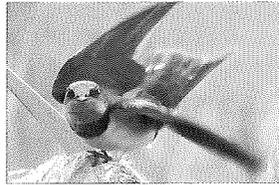


春のカウント結果 (大久保農耕地)

年	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	
調査日	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	
天候	晴れ	雨	晴れ	曇り	雨	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	快晴	快晴	曇り	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	快晴	快晴	曇り	快晴	晴れ	快晴	晴れ	晴れ	晴れ	
1 タマシギ				2																							
2 コチドリ	5	1	2	1	1	4			7	1		1	2	5	2	6	9	4	4	2	6	3	7	4	3	9	
3 シロチドリ				1																							
4 ムナグロ	400	444	488	624	474	386	381	277	127	534	178	143	130	115	304	153	190	413	3	444	283	98	337	5	7	45	
5 ケリ																1										1	
6 キョウジョシギ	3	7	2	2					2	1			2	4		2	1		1		3						
7 トウネン				1																							
8 ウズラシギ	2		2		1	1																					
9 ハマシギ	2		10	30				24	1		9																
10 アオアシシギ			4		2	1	7	3					7								2	1					
11 タカブシギ	50	52	69	16	4	6	6	13	25	5			1	5	2	1	1	6					4		1		
12 キアシシギ	2			3									2	1				2			1		3				
13 イソシギ	2		1									1					1										
14 オグロシギ				1																							
15 チュウシャクシギ	12	6	7	8	3	1	13	12	11	3	10	2	5	11	4	2	3	6	3	5	6	2	13		8		
16 コシャクシギ				1																							
17 タシギ	14	30	39	11	43	36	21	10	26	12	3	6	3	3		1	2			13	3	8	8	2	1	1	
18 チュウジシギ																										1	
19 オオジシギ															1	1											
タシギ属不明種	1	1				3	2	1	2			1												1			
20 アカビレアシギ		1																									
シギ科不明種						5																					
合 計	493	542	624	701	528	443	454	319	199	564	191	158	153	139	315	166	206	432	23	460	304	114	363	11	21	55	

「全国ツバメの営巣環境調査」にご協力を

古来日本人に親しまれていたツバメが減っていると、複数の地域で報告されています。糞の被害、鳥インフルエンザ、福島原発警戒区域内のツバメの巣からの放射性物質検出などにより、ツバメを敬遠する風潮も見られ、ツバメの好む農村環境も減少傾向です。



公益財団法人日本野鳥の会(本部)では、
・ツバメの置かれている現状と社会環境の変化との関係を明らかにすること。
・放射性物質のツバメへの影響を明らかにすること。

を目的に、広く一般市民や野鳥の会会員に呼びかけて、今年から3年間、全国調査を行うことにしました。

調査方法は、一定の設問に対する回答を7月末を目途に本部にお送りいただき、集計解析するものです。

一般市民の調査は<一般調査>「わたしの町のツバメ情報」、野鳥の会会員の調査は<詳細調査>「ツバメの営巣環境調査」とわかれています。

「ツバメの営巣環境調査」の設問項目は次の通り。1巣ごとに1枚の用紙で、

- (1) 住所
- (2) 巣をかけている建物は
①一戸建て住宅 ②集合住宅
③駅など公共施設 ④商店 ⑤工場
⑥その他()
- (3) その巣のあった周辺の環境は
①ビル街 ②住宅地 ③山・畑や緑の多い所 ④河原 ⑤その他()
- (4) その巣のある場所の人の出入りはどの程度ありますか
①ほとんどない ②ある ③多い
10分観察して_____人程度
- (5) その巣の雛の数は
- (6) その巣の親鳥に部分白化を

- ①確認していない ②確認した(できるだけ詳しく、できれば写真を)
- (7) その巣の親鳥に尾羽の異常を
①確認していない ②確認した(できるだけ詳しく、できれば写真を)
- (8) その他気が付いたことを記入します。

本部ホームページ「ツバメ特設サイト」から調査用紙PDFファイルをダウンロードできます。「ツバメ特設サイト」で入力、直接送信もできます。『野鳥』誌6月号でも誌面に盛り込みます。あなたも参加しませんか。

送り先 日本野鳥の会自然保護室

FAX: 03-5436-2635 郵送: 〒141-0031 品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル公益財団法人日本野鳥の会自然保護室ツバメ調査係
問合せ先 山本(TEL: 03-5436-2633)

鳥の行動あれこれ

オオタカのホバリング?

3月3日AM9時30分頃、Kさん、Yさんと私の3人で見沼自然公園探鳥会の下見。Kさんが西から東の上空を直線的に飛翔してきたオオタカ発見! ところがそのオオタカ、急停止して2~3回羽ばたくホバリングを2回繰り返したのです。見ていた3人は哑然~! こいつ何だ~! チョウゲンボウか??? オオタカのホバリングなんて聞いたこともないぞ!! でも、姿形はオオタカ(下尾筒の長く白い羽毛が上面からも見えるところなんか絶対オオタカ!)なのです。後日、Yさんがネットで検索し、オオタカのホバリングが各地で観察されていることを知りました。鳥見は奥が深い。まだまだ知らないことがいっぱいあります。皆さん、オオタカのホバリングを見たことがあります? やるんですよ~。

浅見徹(さいたま市)

●編集部では、このような「鳥の行動あれこれ」を募集しています(詳細は5月号P4参照)。たくさんのお応募をお待ちしています。



野鳥情報

深谷市本田白鳥飛来地 ◇2月5日、荒川の吉野川との合流点上流でヨシガモ♂1羽、ミコアイサ♀2羽、ホオジロガモ♂若鳥1羽♀3羽、オカヨシガモ♂1羽♀1羽、マガモ、カルガモ、コガモ。キンクロハジロの群れの中に、顔全体が白い斑模様の♀1羽。同じ地区内で、これと同様の個体を2010年から3シーズン続けて観察している。2月19日、同所でコハクチョウ7羽、ミコアイサ♀1羽、ホオジロガモ♀7羽(内若鳥2羽)、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロ。コチョウゲンボウ♂1羽が川沿いの低空を飛んだ。3月24日、コハクチョウ10羽、ホオジロガモ♂3羽(内若鳥1羽)♀13羽(内若鳥1羽)、マガモ、カルガモ、コガモ、クサシギ2羽、イソシギ2羽、イカルチドリ5羽土、オオジュリン1羽、シロハラ1羽、ジョウビタキ♂1羽、ノスリ1羽、セグロカモメ1羽(鈴木敬)。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇2月5日、ツミ若鳥1羽、葉を落とす高木にとまっている。喉に黒っぽい臍線がある。2月14日、オオタカ1羽、森の中を飛ぶ。カケス2羽、「ピャー」「キッキッキ」などオオタカの声を真似て鳴き合う。シロハラ1羽、地面で採餌。メジロ、「キュルキュルキュル…」と高い声で鳴く。この声は、さえざり始める前の季節(2~3月)によく聞けるが、やはり繁殖に係る声なのだろうか?(小林みどり)。

さいたま市見沼区七里総合公園 ◇2月8日、アオサギ1羽、コガモ十数羽の群れの中にヨシガモ♂1羽、♀1羽。パン若鳥1羽(小林みどり)。

さいたま市見沼区加田屋 ◇2月8日、加田屋川にダイサギ1羽。アカハラ1羽、昨年と同じ畑にいる。タヒバリ5羽。2月16日、加田屋川にカルガモ5羽、コガモ♂2羽、♀タイプ4羽、カワセミ1羽。畑にはハクセキレイのペア2組(小林みどり)。

さいたま市北区芝川(石橋~鷲山橋) ◇2月8日、カイツブリ夏羽1羽、コガモ♂6羽、♀5羽、♂は盛んにディスプレイを繰り返す。パン5羽、カシラダカ2羽、オオジュリン2羽(小林みどり)。

鴻巣市糠田 ◇2月9日、ノスリ3~4羽、ハヤブサ1羽、チョウゲンボウ1羽、アカゲラ1羽(黒田清恵、小林洋一・みどり)。

川島町八幡 ◇2月11日、越辺川でコハクチョウ約160羽、オナガガモ約100羽など(本多己秀・久文字)。

北本市北本自然観察公園 ◇2月11日、ルリビタキ♂若鳥1羽、シロハラ。タヌキが1頭横切った(本多己秀・久文字)。

戸田市彩湖 ◇2月11日、アカエリカイツブリ1羽(石塚敬二郎・奏)。

坂戸市西坂戸調整池 ◇2月19日午前10時30分頃、観察していると、何かに驚いた鳥たちが、池の水面から、枯れたアシ原の中から、一斉に飛び立ち上空を旋回する。その数コガモ50羽+、マガモ10数羽、カルガモ20羽+、コサギ3羽、ダイサギ2羽、アオサギ2羽。1分程の時間でしたが、素晴らしい感動のシーンでした(増尾隆)。

深谷市中瀬地区 ◇2月21日、利根川右岸河川敷でカオジロガビチョウ5羽土。ガビチョウに似た行動で、低木の根本辺りに集まったり、ヨシの根本にもぐったり(黒澤晃)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇2月22日、グラウンド横の小池でミソサザイ1羽、小石の間を飛び回って採餌していた。テストコース横のアシ原でベニマシコ♂1羽♀1羽、やっと来てくれた。2月25日、ミソサザイとルリビタキが仲良く採餌。そこにジョウビタキが来て、ルリビタキを追い払ってしまった。3月29日、ツバメ今季初認。ウグイスのさえざり、カケス2羽、ルリビタキ♀、ジョウビタキ♀、シメ3羽、オオジュリン、ツグミ、アオジ、ホオジロ、カワセミ、メジロ、エナガ、キジ♀など。元荒川でコチドリ2羽、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ。カモ類の数が激減した。4月3日、朝7時過ぎから15分ほどオオルリがさえざる。昨年より1ヵ月早い(内田克二)。

狭山市智光山公園 ◇2月22日、コゲラ多し。

ヤマガラ5～6羽、エナガ7羽、コガモ、カルガモ、マガモ、ヒドリガモ(本多己秀・久文字)。

坂戸市西城戸調整池 ◇3月10日午前8時頃、

水面に張り出した木の枝に、ゴイサギ成鳥3羽、幼鳥(ホシゴイ)3羽。夕方になると、コサギ15羽が池に帰ってきてねぐら入り。入れ替わるように夕闇の空に、ゴイサギが飛び立つ(増尾隆)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇2月14日、イチョウ

ウの木の梢にシメが2羽、日向ぼっこしていた。ケヤキの枝先にここでは珍しく、ホオジロ♂1羽♀2羽。2月17日、ツグミ1羽が今季初めて地面を歩いていた。コジュケイの鳴き声をしばしば聞くようになった。3月10日、桐の木にハシボソガラスの巣を発見。巢内に1羽が座っている。他の1羽は見当たらない。植え込みの側で、シロハラが落ち葉をひっくり返していた。3月23日、イチョウの梢にツグミが4羽かたまっていた。雑木林の枝先にも7羽が群れていた。新たに渡って来たようだ。屋敷林の藪でウグイスがぐぜっていた。今年は鳴き声を聞けるだろうか?(長嶋宏之)。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇3月14日午前8時

35分、万葉橋から水路沿いに歩くと、向かい側右岸斜面にベニマシコ♀2羽♀2羽。低木に止まったり、草地の地面に降り水際に行ったりと、鮮やかな紅色の姿を楽しませてくれた。同時にシメとアオジも。午前9時、浅羽野橋ぎわ右岸の草藪に亜種オオアカハラ♂1羽。3月14日、ウグイスの初鳴きを聞く(増尾隆)。

所沢市山口 ◇3月16日午後3時45分頃、ニ

ュータウン内の緑道で、狩りをしたばかりのツミ♀に遭遇した。3mほど手前で地面にいるのに気付き立ち止まると、犠牲になったヒヨドリが苦しそうに嘴を動かしていた。ツミは鋭い目をこちらに向けた後、獲物をしっかり掴み、重そうに低空で進行方向に飛び、また20～30m先の道端にいた。そんなことを2回繰り返す姿を見失ったが、翌日最初の発見場所から100mほどの緑道



都幾川河原のノスリ(田島利夫)

に食痕が見つかった。カメラを持っていないことを残念がったが、携帯を持っていることに気付いた時は「後の祭り」だった(小林茂・ますみ)。

蓮田市黒浜 ◇3月27日午前10時30分頃、コジュリン♀1羽、オオジュリンとは声が違い、嘴と足指の色からコジュリンと分かりました。私にとって、去年岩槻区内で観察して以来で、この場所では初観察です。(菊川和男)。

蓮田市蓮田 ◇3月29日、ツミ1羽、例年通り、屋敷林にツミが来た。3月30日、カラスに目を付けられ、2羽に追い掛け回されていた(本多己秀)。

白岡町小久喜 東経36.0178北緯139.6658

◇3月30日、ツバメが1羽、上空を飛び回っていた。ここで今季初認(長嶋宏之)。

さいたま市岩槻区原町 ◇3月31日、ツバメ4～5羽、道路の上を飛び回っていた(藤原寛治)。

坂戸市西城戸 ◇4月1日午前1時55分、2丁目住宅地上空を飛行するツバメ2羽。当地今季初認(増尾隆・節子)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇4月1日、ヒヨドリが咲いたばかりのコブシの花びらを食べていた。カケス2羽がカシの樹の中で枝移り(長嶋宏之)。

表紙の写真

タカ目タカ科ハイタカ属ツミ

栗原喜芳(鴻巣市)



行事案内



コチドリ幼鳥

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。「会員限定」と記載してあるもの以外は、どなたでも参加できます。小学生以下は保護者が同伴してください。

初めの方には、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。遠慮なく見て、楽しみましょう。

参加費:就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物:筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻:特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月2日（土）

集合：午前8時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越 7:23 (急行)→坂戸で越生線乗り換え 7:40 発。または寄居 6:43→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR 埼京線大宮 6:56→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、久保田、志村、杉原、高草木、高橋(優)、藤掛、藤澤、増尾、持丸

見どころ：青葉の高麗川で、ホトトギスや猛禽類を期待します。**開始が1時間早くになりましたが**、鳥合わせの場所から駅までは遠いので、お弁当を食べながらの交流も楽しみましょう。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月3日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。



4月8日、第300回大麻生定例探鳥会。第1回の参加者も駆けつけ、大いに盛り上がりました。

交通：JR 高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:33 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野、山野、飛田、吉原(早)、相原(修)、相原(友)、関口、長谷川

見どころ：熟した桑の実が落ち、いささか蒸し暑い石戸宿です。青葉で鳥は見えにくくなりますが、ホトトギスやカッコウの声が響く森は心を和ませてくれます。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：6月3日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、須崎、倉林、若林、赤堀、藤田(敏)、野口(修)、大井

見どころ：巣立ちの雛が見られる頃。芝川第一調整池を一周します。コアジサシ、ヨシゴイ、そしてカッコウを期待します。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月10日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当：千島、森本、倉崎、栗原、飛田、新井(巖)、

鷓鴣、岡田

見どころ：鳥たちは子育てに一生懸命です。
昨年はカイツブリの雛やホトトギスに会えました。オオヨシキリも囀っています。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月16日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月17日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、青木、新部、渡辺、小菅、若林、赤堀、増田、須崎、船木、畠山、柴野、倉林、宇野澤
見どころ：6月は梅雨の探鳥会。第5の季節とも言われる梅雨にあわせて、どんな鳥たちが出現するでしょう。

日本野鳥の会埼玉 総会のご案内

日時：6月24日(日)
午後1時00分 受付開始
午後1時30分～2時40分 記念講演
午後2時50分～4時30分 総会
会場：さいたま市民会館うらわ(さいたま市浦和区仲町2-10-22)7階705-706集会室。
交通：JR京浜東北線浦和駅西口から県庁通りを西へ。埼玉会館手前角右折。玉蔵院を通り抜けて約400m左側。徒歩約10分。
記念講演：公益財団本部普及室箱田敦只氏



4月8日、第300回大麻生定例探鳥会。
未来のリーダー達と現リーダー。

『トコロジストのすすめ』、林山雅子氏『ヒナを拾わないでキャンペーンの絵本、紙芝居が完成しました』。

総会議題：平成23年度事業報告と決算報告、平成24年度事業計画案と予算案、平成24年度役員選出。

参加資格：会員であればどなたでも参加できます。前年度の活動を振り返り、新年度の予算や方針を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。

長野県・乗鞍(畳平)探鳥会(要予約)

期日：7月29日(日)
集合：29日午前8時05分、JR長野新幹線 上田駅温泉口改札付近。
交通：長野新幹線「あさま501号」(大宮6:50→高崎7:16→上田7:53着)、集合後現地まで往復とも貸切りバスを利用。
解散：JR長野駅にて29日午後7時頃。
帰路：長野新幹線「あさま548号」(長野19:30→高崎20:24→大宮20:49着)に乗車予定。
費用：6,000円(現地バス代、保険料、有料道路料金、駐車料金など)。過不足の場合は当日精算。集合地までと解散地からの交通費は各自負担。
定員：30名(先着順、埼玉会員限定)。最少催行人数は20名。
申し込み：往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、生年月日(保険加入に必要)、電話番号、日本野鳥の会会員番号を明記して、入山博(〒まで、6月1日以降の消印を有効受付とします。

担当：入山、玉井、藤澤、星、浅見
見どころ：日帰りですが、標高2,702mの乗鞍(畳平)ではたっぷり4時間の観察時間があります。ライチョウをメインに高山の鳥を見ます。畳平のお花畑では、高山植物の花々が満開です。熊の出没、天候等不測の事態で畳平での観察ができない場合は、上高地に変更します。その場合シャトルバス代2,400円が別途各自負担となります。
ご注意：高山病のおそれがあります。携帯酸素缶を用意しますが、不安のある方は参加をご遠慮ください。



行事報告

9月4日(日) リーダー研修会

参加：43名 場所：埼玉県自然学習センター

今回の研修は座学のみで模擬探鳥会の実習は行わなかった。資料を基に『探鳥会におけるリスク管理』についてディスカッションを行い、各自が考えるリスクの特定と評価の実習を行った。昼食を挟み、午後からは恒例の自己紹介を行い、事務局から当会の歴史・組織・活動状況等の説明、各部の部長から現状報告があった。特に小荷田研究部長から「シラコバト調査」の報告があり、終了した。(橋口長和)

11月3日(木、休) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加：51名 天気：曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ キンクロハジロ ミサゴ オオタカ チョウゲンボウ キジ バン オオバン イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) (番外：ドバト) 今シーズンは池に来ているカモの数が少ない。下見では確認したミコアイサの姿も見えない。ツグミの飛来もまだ無く、期待していたシラコバトも最後まで姿を見せてくれなかったのが寂しい。(橋口長和)

12月23日(金) 年末講演会

参加：97名 場所：浦和コミュニティセンター

第1部は『振り返るこの一年』で、海老原美夫氏、手塚正義氏、菱沼一充氏の力作を観賞。第2部は、野鳥写真家の叶内拓哉氏から、『野鳥観察の楽しみ方』と題して、氏の撮影されたスライド



を見ながら、生態観察の楽しみ方について講演いただいた。終了後、場所を移し有志で氏を囲んで鳥談議。(橋口長和)

2月4日(土) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加：39名 天気：快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハイタカ ノスリ バン オオバン イカルチドリ クサシギ タシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 菅谷館からオオムラサキの森はシジュウカラ、メジロがポツポツいる位。林内にツグミの群れがいてようやく一息。シメも現れた。ホタルの里でカシラダカの群れ、都幾川沿いの道から見ていたら、なんとタシギ。ここでは初めて。カワセミがホバリングし、ジョウビタキ♀がかわいい姿を見せた。土手の上空をノスリが飛んだ。河原に出るとカモが5種。ここで5種は初めて。ハイタカも青い空を帆翔。(千島康幸)

2月5日(日) 北本市 石戸宿

参加：56名 天気：晴

カワウ アオサギ コガモ コジュケイ キジ タシギ キジバト カワセミ アリスイ アオゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシブトガラス (32種) (番外：ガビチョウ) スタート直後に木道からタシギを見た。桜堤に行く道の右側土手の茂みの中で、ツグミ、シロハラ、アカハラが落ち葉をかき分けていた。桜堤を越えて河川敷に下りる坂道の左側の土手にタヌキが寝転んでいた。釣り堀の先の草むらでキジの♀が飛んだ。一夜堤の近くでルリビタキ。前日の下見で見たハンノキの近くでアリスイ。下見で見たヤマシギは出なかった。ミソサザイの地鳴きを聞いたのを鳥合わせで言い忘れた。参考に追加。(吉原俊雄)

2月5日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：69名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ オオハクチョウ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ホシハジロ オオタカ ノスリ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ キジ バン オオバン イソシギ セグロカモメ キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) (番外：ドバト) 調節池東側の工事が終わり、周回道路を1周する。非常に眺めがよく、鳥との距離も保たれている。この冬は鳥が少ないと言われる中、皆さんのおかげで42種も確認できた。都心から程近く、東京スカイツリーも望めて、ハクチョウやチュウヒが越冬するこの場所を見守って行きたい。(手塚正義)

2月5日(日) 狭山市 智光山公園

参加：47名 天気：晴

カイツブリ ゴイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オオタカ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ イカル スズメ カケス ハシブトガラス (28種) (番外：ドバト) 今回の主役はイカル。「お菊二十四〜」に引き寄せられて必死に捜した。ようやく見つかって一気に盛り上がった。アオゲラも出現。冬鳥は少なかったが、満足の探鳥会。「そちこちに 声はすれども 姿なきイカル捜してしばし歩めず」(石光 章)

2月9日(木) 戸田市 彩湖

参加：32名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ ヨシガモ ハシビロガモ キンクロハジロ ホオジロガモ ノスリ オオバン イソシギ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ タヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン

カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) すっきりと晴れ、風も弱い。池にカワセミはいなかった。グラウンドにハクセキレイ、タヒバリ、ヒバリ。湖岸に出るとカイツブリ類3種のお出迎え。橋を渡って西岸へ。オナガを見ながら北へ。ベニマシコを探すが見つからない。機場に近くなった所でホオジロガモ♀、ヨシガモを見て、鉄橋下の草原にオオジュリンを探した。ベニマシコが出なかったと思っていたら、見た人がいることが鳥合わせでわかってホッとした。(倉林宗太郎)

2月11日(土、休) さいたま市 大宮市民の森

参加：63名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ バン オオバン タシギ キジバト コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外：ドバト) 「天気晴朗ナレド波高シ」ではなく風強シ。早朝にいたホオジロ類がほとんど出ない。カモ類も何処にいったのやら。後半にタシギが出現し全員がゆっくり見られる大サービス。リーダーとしてホッとした。自然が相手では仕方がないが、もう少し風が弱ければと思ってしまう。(青木正俊)

2月12日(日) 熊谷市 大森

参加：29名 天気：晴

カイツブリ ダイサギ トビ ノスリ ハヤブサ キジ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシブトガラス (30種) (番外：ガビチョウ) 風が強い予報で野鳥の森に向かう。土手に上がるとハヤブサが現れた。河原に出ると珍しくセグロカモメ2羽が飛んだ。ノスリがハシブトガラスにモビングされていた。野鳥の森に入るとエナガ、シジュウカラ、メジロの混群が現れた。池の近くでシロハラの地鳴きと思ったが、見るとアカハラ。池ではメジロが水飲み、ビンズイが水浴び。(千島康幸)



●大麻生定例探鳥会 300 回記念ワッペン



1984年(昭和59年) 5月20日が1回目。それ以来28年間。今年4月8日(日)、熊谷市大麻生定例探鳥会は、300回目!

記念ワッペンは1994年(平成6年)5月8日の100回記念ワッペンのデザインをそのまま受け継ぎ、朱文字で「300th」と加えました。「歴史」でザックなどを飾ってみませんか。1枚500円。探鳥会で販売中。在庫限り。お早めにどうぞ。

●今年も「ヒナを拾わないで！」

野鳥のヒナが地上にいても、拾わないでください。親鳥が近くにいて、人がいなくなるのを待っています。ヒナをそのままにして、できるだけ早くその場から離れてください。ネコやカラス、車などが心配なら、ヒナを近くの茂みなどに移動することはできます。親鳥はヒナの声で居場所がわかります。

人が鳥のヒナを、自然の世界で生きていけるように育てることはできません。何とか元気に育つと祈りながら、そのままにしておきましょう。本部のホームページ、「当会の活動」>「普及教育」>「ヒナを拾わないでキャンペーン」で詳しく説明しています。

●関東ブロック団体からの連絡

日本野鳥の会吾妻が代表:堀込紀夫氏から松本倅市郎氏に、事務局:堀込氏宅から松本氏宅に変更。

●会員の普及活動

4月2日(月)さいたま市南区西浦和公民館文化活動グループ月例会で、講演「バードウォッチング入門(気ままなバードウォッチング)」。講師:陶山和良、アシスタント:岩井義雄。参加者25名。

●またもや「ごめんなさいコーナー」

4月号本欄「4月の活動」、役員会予定4月22日(日)は4月15日(日)の誤りでした。役員にはメールなどで連絡しました。

●会員数は

5月1日現在1,931人。

活動と予定

●4月の活動

4月14日(土) 5月号校正(海老原美夫・佐久間博文・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司・山田義郎)。

4月15日(日) 役員会(司会:浅見徹、各部の報告・連携団体全国総会出席者・県のシラコバト生息状況調査協力依頼への対応・探鳥会予定の一部変更・その他)。

4月23日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け5月号を発送(倉林宗太郎)。

●6月の予定

6月2日(土) 編集部・普及部・研究部会。

6月9日(土) 7月号校正(午後4時から)。

6月16日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

6月17日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

自分のフィールドでツミのみ♀を見つけた。餌渡しも見た。巣作りもしている。繁殖が楽しみだ。と思っていたら、勤め先の駐車場の側にも、別個体のツミ♂♀が来ていることに気づいた。多くの人に教えたい、しかし、マナー違反のカメラマンが怖い。(山部)

しらこぼと 2012年6月号(第338号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社